

地域と育む未来医療人「なごやかモデル」

代表者 医学研究科 教授 浅井清文

連絡先 kiyoasai@med.nagoya-cu.ac.jp

連携・協力者

名古屋学院大学、名古屋工業大学、独立行政法人都市再生機構、NPO法人たすけあい名古屋、鳴子つながりネットワーク、名古屋市

ポイント

医・薬・看・リハビリ・工学部の学生と地域住民が連携し、AIPの実現に取り組みます

1 概要

- ・学生や若い医者等が住民と協働してエイジング・イン・プレイス（AIP）*コミュニティづくりに取り組む実践研修の場を、高齢化の先行する緑区鳴子団地に形成し、AIP 社会の医学・医療の発展と向上を担う人材を養成しています。

*エイジング・イン・プレイス（AIP）：高齢者が最期まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けること

2 活動内容

- ・鳴子団地における教育・研修活動の拠点として「コミュニティ・ヘルスケア教育研究センター」内に「なごやか暮らしの保健室」と「キャリア支援室」を開設し、地域の住民と学生が連携して健康なまちづくりと人材育成を両立する活動を行っています。
- ・「なごやか暮らしの保健室」は、専任の保健師が常駐し、学生と地域の住民が交流し、住民同士が暮らしや健康・医療・介護について相談することのできる場となっています。
- ・また、在宅医療を推進するための多職種連携研修会や地域における健康啓発イベント等の開催のほか、学生が地域のイベントに参加するなど、様々な活動を行っています。

3 成果

- ・平成 26 年の開設以来、29 年 1 月末現在で「なごやか暮らしの保健室」には 4,200 名を超える住民の方が訪れました。また、学生の地域活動への参加を 73 回、健康啓発イベントを 35 回、住民とのふれ合いサロンを 61 回実施しました。
- ・これらの活動を通じて地域との信頼関係が構築され、エイジング・イン・プレイスを目指すまちづくりの実践研修フィールドとなっています。



コミュニティ・ヘルスケア教育研究センターにて



鳴子学区納涼夏祭りへの学生参加